

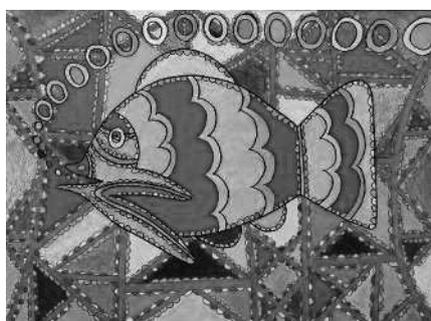
<トピックス6>

あいちアール・ブリュット — ゲイジュツのチカラ —

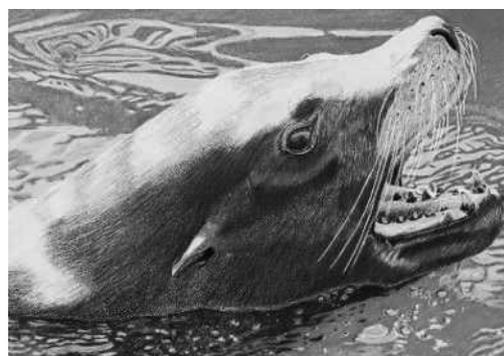
愛知県では、「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」（作品展、舞台・ステージ発表、トークイベント等）の開催など、障害のある方の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無を越えた交流が広がることを目指しています。

「絵を描くこと」が仕事に

平成28年、障害のある20代の男性2人が「絵を描くこと」を仕事として、一般企業に就職（在宅勤務）しました。在宅勤務なので、事務所や店舗に出勤するのではなく、自宅で創作活動に取り組まれています。



「ボンボヤージュ(いい旅を)」
青山 典生
(日本メディアシステム株式会社)



「アシカ」
浦 聖人
(トーテックアメニティ株式会社)



「フレンズ」
森祥平
(株式会社ほていや)

会社は、彼らが絵を描くことを応援し、会社の名前をPRしながら作品展などに展示したり、作品が店舗に飾られたりすることで、会社の広報をしています。

この取組は、ハローワークと県、福祉・アートの専門家の連携により実現したもので、全国的にもめずらしいものです。令和7年4月時点、県内で21名の方が就職されています。

皆さん、就職後は作品の幅や作風が広がったり、創作の時間が長くなったりと、「絵を描くこと」が「仕事」になった自覚をもって、創作に取り組まれています。

あいちアール・ブリュットのゲイジュツのチカラは、福祉や芸術の分野を超えて広がっています。



ロゴマーク「ゲイジュツのチカラ」

芸術には、作る人・見る人、そして障害のある人・ない人の心を変える大きなチカラがある。そのチカラは、お互いを認め合うボーダーのない社会への推進力になると信じています。